

概要

2015年 善光寺御開帳記念講座 【続・古典を読む -歴史と文学-】

第2回「縁起と史実：善光寺創建の謎を解く」
-十卷本『伊呂波字類抄』 「善光寺古縁起」
を如何に読むと史実が見えてくるか -

開講日時： 4 / 18 (土) 午後2:30～4:20

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：東京大学 史料編纂所 古代史料部門 教授

田島 公 (たじま いさお)先生

概要：古代の善光寺の創建に関しては、奈良時代や平安前期の史料に記述がないが、院政期に編纂されたと思しき十卷本『伊呂波字類抄』に見える「善光寺縁起」が「奈良古縁起」の内容を含むものであることを確認したあと、奈良時代の縁起が院政期に判りやすいように書き直されたことに注目し、「善光寺縁起」を丁寧に読み、縁起から史実を解明する。

何故、「仏教公伝」(欽明13年〔552])の際に、百済から日本(倭国)もたらされたと伝える仏像が、50年間「京底流転」した後、若麻績東人が推古10年(602)に「麻績村」に一時安置して、40年後の皇極2年(642)更に「水内宅」に移したのか、そして、こうした「縁起」がどうして166年後の神護景雲2年(786)に報告されることになったのか。十卷本『伊呂波字類抄』の「善光寺」の項の構造と用いられた用字に注目し、「麻布」という視点からその謎を解明する。